

平成26年度鳥取県立高等学校入学者選抜
学 力 検 査 問 題

国 語

(第1時限 9:20~10:10 50分間)

注 意

- 1 「始め」の合図があるまで、開いてはいけません。
- 2 問題は全部で5題あり、10ページまでです。
- 3 「始め」の合図があったら、まず、解答用紙に受検番号を書きなさい。
- 4 答えはすべて解答用紙に書きなさい。
- 5 答えに字数制限がある場合には、句読点やその他の符号も字数に数えるものとします。
- 6 問題を読むとき、声を出してはいけません。
- 7 「やめ」の合図で鉛筆を置きなさい。

【問題一】 田中さんは、夏の自由研究の題材に鳥取県の伝統工芸品である「因州和紙」*をとりあげ、生産者の竹本さんの工房を訪問して、インタビューを行いました。そのインタビューの様子を読んで、あとの問いに答えなさい。

(田中) はじめまして、〇〇中学校の田中です。よろしく願います。

(竹本) 竹本です。よろしく願います。

(田中) A

(竹本) はつきりとはわかっていませんが、奈良時代の正倉院文書の中に、因幡の国いなばで作られたと思われる紙が保存されていたそうです。

(田中) ずいぶん古くから作られているんですね。では次に、因州和紙の特徴について教えてください。

(竹本) きめが細かく、^①心地よく書いて、筆先が傷まないことから、俗に「因州筆、切れず」と言われ、全国の多くの書道家や和紙愛好家に愛用されています。

(田中) 竹本さんのところでは、^②書道で使う紙以外に因州和紙を使った製品を作っておられますか。

(竹本) ええ、最近ランプの傘やランチョンマットなど、和紙の特性を生かした製品の開発に、力を^③注いでいるんですよ。

(田中) そうなんですか。和紙って、昔の人が使っていたものという印象がありましたが、みなさんの創意工夫で今の生活の中にも息づいているんですね。そもそもこの仕事を^④竹本さんが選んだ理由は何ですか。

(竹本) 一言でいえば、和紙のもつ魅力に惹かれたからかな。まあ、^⑤「百聞は一見に如かず」と言いますから、田中さんも実際に紙を漉く様子を見学したり、因州和紙に筆で字を書いたりしてみませんか。

(*注) 因州和紙：現在の鳥取県東部(昔の因幡の国にあたる)で作られてきた和紙の総称。
工房：美術家や工芸家などの仕事場。

問一 ^①心地 ^②注いで について、読み方をひらがなで答えなさい。

問二 空欄 A では、田中さんはどのようなことについて質問しているでしょうか、答えなさい。

問三 ¹切れ と活用の種類が同じ動詞を、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 逆転ホームランを打ちました。
イ ゴミを捨ててはいけません。
ウ それを見れば思い出せます。
エ コートを着て外出する。

問四 ²書道 と構成が同じ熟語を、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 登山 イ 省略 ウ 日照 エ 急流

問五 ³竹本さんが選んだ理由は何ですか には、使用すべき尊敬語が使われていません。尊敬語を適切に用いて傍線部3を書き直しなさい。

問六 ⁴「百聞は一見に如かず」とありますが、この書き下し文に従って、漢文に返り点をつけるとどのようになりますか。次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 百聞 不 如 一 見。
イ 百聞 不 如 一 見。
ウ 百聞 不 如 一 見。
エ 百聞 不 如 一 見。

問七 インタビューなどの聞き取りをする際のメモの取り方について、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア あとで思い出せる程度に、短くまとめて書く。
イ 他の人にも見やすいように、行をそろえて書く。
ウ 文章の構造に間違いがないように、慎重に書く。
エ 話した人の言葉の通りに、一言一句全て書く。

問八 次の の中は、田中さんが因州和紙に行書で書いた漢字の部首です。この部首を含む漢字を、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。



- ア 和 イ 級 ウ 誇 エ 減

【問題一】 次の A と B の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(出題の都合上、本文を一部改めた箇所がある。)

A (1) (13) は段落番号を示しています。

1 ある日、芸術系の大学で教えている友人と、いつものように何とはなくおしゃべりをしていて、話がおもしろい方向に展開しだした。いつもなら、最近の注目株、といった話題になるのだが、その日は妙にくそまじめに、そもそも俺たちは何をしに美術館に行っているのだろうかという話になった。

2 彼の説はこう。

3 美術館に行くひとには、三つの動機がありうる。一つは、見たかったのにこれまで見られなかったものに、やっと出会えるというもの。いま一つは、これまで一度も見たこともないようなものに出会えるかもしれないというもの。そして三つ目は、見なければならぬものだから見に行くというもの。

4 これ以外にも、みんながいいと言うから見に行くとか、空き時間ができたのでふと立ち寄るといったやや他動的な理由も考えられるだろうが、いまは① ショガイしておく。

5 さて、一番目の動機は、美術ファンのほとんどが共有するものだ。二番目の動機も、たしかにそういう面があるとおもう。見たこともないような新規なもの、すぐには理解がたいようなものにふれることで、芸術を見る眼、ひいては世界を見る眼を洗いなおしたいという思いは、プロ、アマいずれにおいてもかなり強いものがあるとおもう。

6 問題は三番目だ。見なければならぬものとは何かということだ。どうしても見たいわけでもなければ、ぞくぞくするような未知の刺激を浴びるようにはおもえないけれど、それでも一応見ておかなければならないもの。

7 じぶんの好きなもの、じぶんを揺さぶるであろうものに惹かれて美術館に行くのではなく、見なければならぬから行くというの、一見、「a」な動機であるかみえる。けれども、じぶんのまなざしに別の補助線を入れることで、まなざしの構えというか入射角というものをつねに調整してお

くことは、美術における変化の徴候、あるいは未知の表現をキャッチするにはとても大切なことである。その補助線の一つが、じぶんをこれまで惹きつけることはなかったけれど、少なからぬひとが評価してきた表現の水脈である。

8 ここで「教養」という言葉がふと思ひ浮かぶ。「教養」とは、一言でいえば、何がほんとうに大事で、何が場合によつてはなくてもいいものかを見分ける力のことである。ものごとの軽重の判断がつくこと、と言いかえてもよい。

9 そういえば以前、内田樹たつきさんが『街場の現代思想』のなかで、大学の講義で学生がまず身につけなければならぬものとして、次のような能力をあげていた。「I」と「言っていることは整合的なんだけれど、うさんくさいもの」を「直感的に識別する前・知性的な能力」である。

10 ここに「教養」の原型があるとわたしもおもう。こうした「前・知性的な能力」を身につけるためには、関心があるのかかわらず、多様な思考や表現の冒険にいったん身をさらさなければならぬ。じぶんの関心とはさしあたつて接点のない思考や表現にもふれなければならぬ。そのなかで、じぶんの興味とは異なる補助線を立てることで、より客観的な価値の遠近法をじぶんのなかに組み込まなければならぬ。要するに、世界を受けとめるキャッチャー・ミットをとにかく大きくしておくということだ。

11 しばらく前に、耐震偽装が大きな問題になり、その後も食品への異物混入や巧妙なIT詐欺や年金記録の②フンシツなどといった不祥事が続いたけれど、そして世の中が大騒ぎになったけれど、これらの事件を忘れるのにもとにかくはやい。まるでみんな、普遍的*健忘症にかかったかのようなのである。

12 なぜこんなにもはやく忘れるのか。それは、何が「b」な徴候で、何が構造そのものの軋みであるかの判断を、大き

なスケールの価値の遠近法のなかでなまなかつたからである。すべては走馬燈のように、感情の表面を次々とゆらめかせただけだからである。

⑬ まなざしがどれほど遠くまでおよぶか、どれほど深く測鉛を垂らせるかは、おそらくはそのひとの「教養」にかかっている。そのためには、これまでじぶんの関心の外にあつたけれども「一応は見えておかなければならないもの」に、ふだんから触れつづけておく必要がある。身を養うというのは、そういうことだとおもう。

(鷺田清一『噛みきれない想い』による)

(*注) 耐震偽装：建物の耐震強度の不足をごまかすこと。

健忘症：一定期間の記憶を思い出せない症状。

測鉛：水中に投げ入れて深さを測る器具。

B (A) の 9 段落の引用箇所を含む文章)

* キャンパスという無意味に広い空間が必要なのは、そこに行くとき「自分が知りたいことが知れる」からではない。そこに行くとき「自分がその存在を知らないことさえ知らなかったもの」に偶然でくわす可能性があるからである。「大学の中をふらふらす」という作業がどうしても必要な遊弋^{ウツロウ}はそのためである。そして、キャンパスにゆらゆらと遊弋しているうちに、「I」や「言っていることは整合的なんだけれど、うさんくさいもの」を直感的に識別する前、知性的な能力がしだいに身になじんでくる。そのことが、ある意味で大学教育の最大の目標なのである。

(内田樹『街場の現代思想』による)

(*注) キャンパス：大学の構内(敷地内)のこと。

遊弋：あちこちと歩き回ること。

問一

① ジョガイ

② フンシツ

① ② について、カタカナを漢字に直して、楷書で書きなさい。

問二

① 見なければならぬもの とありますが、ここではどのようなものですか。「I」につながるように、A の本文中から四十字以内で探し、そのはじめと終わりの四字を抜き出して、答えなさい。

問三

空欄「a」、「b」に入る言葉の組み合わせとして、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア a 積極的

b 表層的

イ a 積極的

b 本質的

問四

A と B の文中の空欄 I にあてはまる最も適切な言葉を、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア なんだかまるで分らないけれど、凄^{すさ}そうなもの

イ 言っていることが整合的で、その上凄^{すさ}そうなもの

ウ なんだかまるで分らなくて、うさんくさいもの

エ 全く凄^{すさ}くもなくて、全くうさんくさくもないもの

問五 2 じぶんの興味とは異なる補助線を立てる。とありますが、どういふことですか。 [B] の文中の言葉を用いて説明しなさい。

問六 ここに「教養」の原型があるとわたしもおもう。とありますが、次の文は「教養」についての筆者の考えを説明したものです。空欄①には六字で、空欄②には七字で、それぞれ [A] の本文中から抜き出し、次の文を完成させなさい。

筆者は、「教養」とは、自分の関心がないことにもどつねに触れ続けることで身につけた（①）によって、（②）を判断する力のことである。

と考えている。

問七 [A] の本文における段落の説明として、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア [1] 段落は、身近な話題を提示しながらも、これから述べようとしている結論をも含んでいる。
- イ [6] 段落は、それまでの内容をふまえ、具体的な例を示すとともに、前半のまとめをしている。
- ウ [8] 段落は、結論の裏付けとして足りない部分を補強するため、一般的な説を取り上げている。
- エ [11] 段落は、現代社会における筆者の主張の重要性を伝えるため、身近な問題を提示している。

【問題二】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（出題の都合上、本文を一部改めた箇所がある。）

【この場面までのあらすじ】 小学校一年生の私（本文ではセン）には、体の弱い二つ年下の妹チエミがいる。そのため、外で遊びたくても、幼いチエミをひとり家に置いて出るとは姉として許されない。チエミのことを邪魔だと思わないように自分に強く言い聞かせてはいるものの、夏休みだというのに海や山に遊びに行けない日が続き、私は我慢する一方でおもしろくない。そんな中、お盆に親戚が泊まりに来るといふ恒例の行事があった。親戚の中でも、小学校六年生の洗兄は私のことを一番かまってくれ、洗兄の姉のマリさんはチエミをかわいがってくれたので、私とチエミは二人が来るのを楽しみにしていた。洗兄とマリさんたち一家（本文ではイチノセキ一家）がやってきた日、さっそく私は洗兄と海に行き、チエミは家でマリさんにピアノを弾いてもらった。次に続く場面は、その日の夕食時のことである。

隣には、口の中にもくもくとご飯を入れる洗兄。

「セン、これ食ったら *ファミコンやろうな」

「うん！」

たくさんの会話が飛び交う。食器のかちやかちやなんて、声

の下に隠れてしまってほとんど聞こえない。食卓の周りだけ、何となく暑い気さえする。

私は小さいテーブルの隅にいて、でも確かに大きく包まれていると感じた。この騒がしい食卓の中に、すっぽりと。それはとても心地よかった。

「ね、洗兄、イチノセキの一家とウチと、一緒になればいいと思わない？」

隣に話しかけると、洗兄はご飯茶碗を下ろして、「ん。

「ほえいいい」とやっぱりご飯で頬をふくませながら箸で私を指した。それで私はますます気を良くした。

が、そこにマリさんの高い笑い声が割って入った。それは会話を夢中な大人たちの気までは引かなかつたけれども。

「やあだあ、センちゃん。そんなことあるわけないじゃない」
見ればマリさんは、ひどいくらいにいつもと同じ、やさしげな顔で笑っていた。その横でチエミが、口元にご飯つぶをくつつけたままぼかんとした。私も、まさか真つ向から否定されるとは思っていなかったもので、まばたきしかできなかった。隣で洗兄が、明らかにむっとしたのがわかった。

「大人げねえの……」

洗兄のそのつぶやきを、マリさんは聞き逃さなかった。マリさんはわざと強く箸をお碗の上に置いた。ふたりのあいだの空気が張る。

頭がすうっと冷えた。この姉弟の確執など知らなかったものだから、見せつけられてショックだった。けれどもそれより、私の気にかかっていたのは、真正面に座ったチエミのことだった。チエミは涙を抑えるというよりは引つ込ますように、目も鼻の穴もいっぱいに開いて、肩を小さく震わせていた。それが痛々しくて、³私は本当にさつきの発言を後悔した。

三日だった。高校生になったマリさんが、この何もない田舎で子守に耐えられたのは。

四日目に、マリさんはお先にとこの家を出ていった。電車で帰ると四回も乗換えがいるらしいのに、それでもひとり帰った。「夏休みの宿題が間に合わない」という口実ではあったけれども、私はお母さんとばあちゃんが皿洗いをしながらぐちゃぐちゃ言うのを聞いてしまった。

*「見だが、あんの足の爪やー。まっピンクよ」

三日間通っていた海に、私と洗兄は行けなくなった。チエミを連れて、田んぼのあぜ道をぶらぶらした。洗兄はトンボをつかまえて私の耳をかませたり、草相撲に使ういい草の選び方を

教えてくれたり、相変わらず面倒見のいい洗兄だったけれど、どこか心ここにあらず、なことが多くなった。私とチエミを遊ばせて、自分は庭の塀の上に腰かけてぼうとする時間もあつた。そういう洗兄を見つけてしまうと、私は何とか気を引きたくて、「連続コインを取るマリオ」とか「マリオに踏まれるクリボー」とかファミコンネタのものまねを披露した。洗兄は大いにウケて、手を叩いて喜んでくれたけれど、でもそれは何の歯止めにもならなかった。私だつてわかつてはいた。マリさんはきつと二度とここに来ない。そして **A**。今年を入れて数えても、五本の指が洗兄のために折られることはないだろう。

八日目に私たち——家族全員から、もう仕事の始まった両親をのぞいた四人——は、イチノセキ一家を道まで出て見送った。ライトバンの後部座席に乗った洗兄は、私とチエミの頭をそれぞれぼんぼんと叩いて、「また来年年」と言つて例のごとく健康的に笑つた。私たちは何も言わずにうなずいた。

洗兄とおばちゃんが手を振る、車の窓が遠ざかる。砂利道から出て、学校とは逆のほうへ、長い長い一本道を車は行く。次の集落に入るまで、ずっと車は見えていて、私たちは手を振り続ける。洗兄たちも、私たちが消えるまでえんえん手を振っている。赤い屋根の家の陰に、車がすつと隠れてしまうと、じいちゃんもばあちゃんもフーツと大きくひと息ついた。「終わった終わった」などと腰を伸ばしながら家のほうへ引つ込んでいく。いつもなら私とチエミもすぐそれに続くのだけれど、チエミはうつむいて動かなかつた。私もそこでじつとしていた。

「ねえちゃん」
チエミがふいに顔を上げた。ぎらぎらと濡れた瞳が、まっすぐに私を見た。

「マリちゃん、もう来ないよね」

来ないだろうね、とあやうく返しそうになるのを、ぎりぎりのところで呑み込む。

「わかんないよ。来年になつてみなくちゃわかんないよ」

私は腰をかがめて、チエミの両手をにぎった。小さな手はとも熱い。

チエミがぼろんと大粒の涙をこぼして、思わずつられそうになるのをこらえた。うつむいたら足元で、蟬の死骸に蟻がたかっていた。蟬は、夏の陽に焼かれきってしまったかのように乾いていた。ざつと音が鳴る。風が吹いて、稲の葉を撫でる音だ。大きい風が、チエミの長い髪をばあつと舞わせて、私の半ズボンから

出た脚のあいだを通り抜けていく。

気が付いたら夏休みは、あと四日しかなかった。洗兄が来た日から、一行日記が白いままなのを思い出す。遊び疲れて何も書けなかったのだ。その七行を、小さい文字でつめてつめて十四行くらいにしよう、と思いつきながら、私は洗兄がしてくれたように、⁴チエミの手をしつかりとにぎり続けていた。

(豊島ミホ『夜の朝顔』による)

(*注) ファミコン：「ファミリコンピュータ」の略で、テレビゲーム用のコンピュータのこと。あとに出てくる「マリオ」「クリボー」

はゲームに登場するキャラクターの名称。

「見だが、あんの足の爪やー。まっピンクよ」：マリさんが足の爪をピンクに塗っていたことを指して言った言葉。

問一 イチノセキの一家と とありますが、ここで用いられている「と」と同じ意味・用法のものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 梨とぶどうを親戚に送る。 イ 彼と会々と話し込んでしまう。
ウ わざと遠回りして通勤する。 エ ピアノとか算盤とかを習う。

問二 ¹それで私はますます気を良くした とありますが、それはどうしてですか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 洗兄といるだけでも幸せであるのに、食事を中断してまで洗兄が自分の質問に答えてくれたから。
イ 夕食後にファミコンをして遊ぶ約束をした上、洗兄の時間をひとり占めできたように感じたから。
ウ 会話が飛び交う食卓の雰囲気幸福を感じていた上に、自分の提案に洗兄が賛成してくれたから。
エ 適当にあしらわれるだろうと思っていた質問に、洗兄がまじめにかつ肯定的に答えてくれたから。

問三 ²「やあだあ、センちゃん。そんなことあるわけないじゃない」 とありますが、本文全体を朗読する場合、このマリさんの言葉をどのように読めば、場面の様子がよく伝わりますか。このときの朗読の仕方として、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア センと洗兄のあまりにも突拍子もない考えにあきれて、二人を見下すように冷やかな口調で読む。
イ 二人の会話が自分の望まない方向に進んでいきそうなのを止めるため、きつぱりとした口調で読む。
ウ 小学生二人に比べ、知識豊富な高校生という自覚がわき、二人をさとすようにやさしい口調で読む。
エ 子供じみたセンと洗兄のやりとりに対して、ありえないことと笑い飛ばすような明るい口調で読む。

問四³ 私は本当にさっきの発言を後悔した とありますが、それはどうしてですか。適切なものを、次のア～カから二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の発言によって大好きな洗兄に嫌われてしまうのではないかと思ったから。
- イ 自分の発言によって思いもなかった姉弟の確執を知り、衝撃を受けたから。
- ウ 自分の発言によってチエミがマリさんのことを怖がるようになったから。
- エ 自分の発言によって親族全員を冷え冷えとした気分にした気分にさせてしまったから。
- オ 自分の発言によってチエミにつらい思いをさせることになってしまったから。
- カ 自分の発言によってマリさんが家に帰ってしまうのではないかと思ったから。

問五 空欄 A にはどのような内容が入りますか。前後の内容がつながるように、「そして」に続く一文を書きなさい。

問六⁴ チエミの手をしつかりとにぎり続けていた とありますが、この時のセンの気持ちを三十字以内で説明しなさい。

問七 情景描写~~~~~について、国語の授業でAさんとBさんが次の意見を発表しました。あとの問いに答えなさい。

Aさん 「蟬の死骸」や「稲の葉を撫でる音」は(①)の訪れを表しており、同時に、センの心に変化が訪れたことも暗示しているのだと思います。

Bさん 私は、「蟬の死骸」は悲しみに暮れているセンとチエミの心を象徴しており、「大きい風」は、その二人の悲しみを吹き飛ばして、前に進ませるものとなっていると思います。つまり、私は(②)と思います。

(1) 空欄①にあてはまる語を漢字一字で答えなさい。

(2) 空欄②にあてはまる内容として、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「蟬の死骸」は「悪」を、「大きい風」は「善」を表している
- イ 「蟬の死骸」は「静」を、「大きい風」は「動」を表している
- ウ 「蟬の死骸」も「大きい風」も、「非現実世界」を表している
- エ 「蟬の死骸」も「大きい風」も、「自然の営み」を表している

問八 本文の表現上の特徴とその効果について、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 登場する子供達の言動を敬体で描写することで、子供達の幼さを強く印象づけている。
- イ 簡潔な会話文や倒置法を多用することで、登場人物の心情がわかりやすくなっている。
- ウ 複数の登場人物の視点から本文が語られることで、小説の内容に客観性をもたせている。
- エ 擬声語や擬態語を多用することで、小説全体に生き生きとした臨場感を生み出している。

【問題四】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

今は昔、^{*} 隠題をいみじく興ぜさせ給ひける御門の、^{*} ひちりきを詠ませられけるに、人々わろく詠みたりけるに、

木こる童の、^{わからは} 暁、^{あかつき} 山へ行くとして、^{おもしろがられておいでになった帝が} 人のえ詠み給はざる、^{お詠ませになるといふことだが} 上手にお詠みになれない、^{上手にお詠みになれない、そうなる}

1 童こそ詠みたれ」と、^{一緒に行く子供が} いひければ、具して行く童部、「あな、おほけな。^{ああ、身の程知らずな} 2 かかる事ないひそ。 ^{言うな} さまにも似ず。^{柄にもない}

いまいまし」と、^{どうして} いひければ、「なか必ずさまに似る事か」とて、

めぐりくる春々ごとに 桜花 ^{いくたびちりき人に問はばや} 幾度咲きまた散つていったことか ^{誰かに聞いてみたいものだ}

と、³ いひたりける。 ^{さまにも似ず、思ひかけず。} (『宇治拾遺物語』による)

(*注) 隠題：事物の名を歌の中に隠し詠む作歌法。
ひちりき：雅楽(日本の大和・奈良・平安時代に栄えた、宮廷の合奏音楽)の管楽器。竹製の堅篎。

問一 童 ^{わからは} を現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

問二 文中のア、エの ^{いひ} のうち、他と主語が異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

問三 ¹ 童こそ詠みたれ ^{は係り結びの表現になっています。ここで使われている係りの助詞「こそ」はどのような働きをしていますか。次のア、エから一つ選び、記号で答えなさい。}

- ア 疑問 イ 否定 ウ 断定 エ 強調

問四 ² かかる事ないひそ ^{とありますが、どのようなことを非難しているのですか。最も適切なものを、次のア、エから一つ選び、記号で答えなさい。}

- ア 無理難題を命じる帝の強引さ イ 上手に詠めない大人の無能さ
- ウ 自分は詠めたという童の自負 エ 助言を無視する童のわがまま

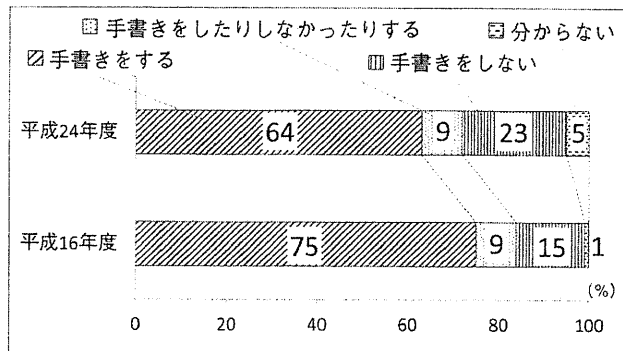
問五 文中の和歌「めぐりくる」の中で、「**隠題**」に該当する箇所を抜き出して答えなさい。

問六 ³ さまにも似ず、思ひかけずぞ とは、筆者の感想ですが、このように思ったのはどうしてですか、説明しなさい。

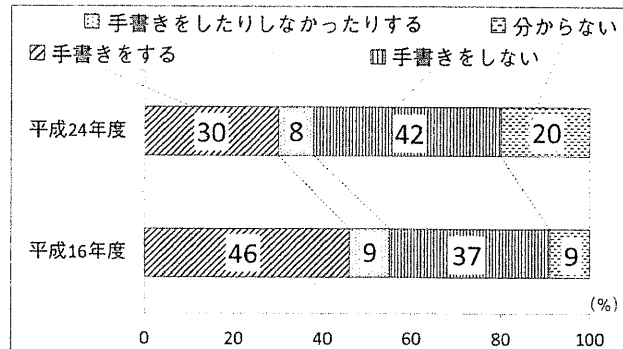
【**問題五**】 次のグラフA、Bは、文化庁が行った「国語に関する世論調査」の中の調査項目「**ふだん、手書きで文字を書くほうか**」の調査結果をもとに作成したものです。これらのグラフを見て、あなたが考えたことを、あとの【**条件**】に従って書きなさい。

「ふだん、手書きで文字を書くほうか」

グラフA 【はがきや手紙などの本文】



グラフB 【報告書やレポートなどの文章】



文化庁「平成24年度『国語に関する世論調査』の結果の概要」をもとに作成。(四捨五入の関係で合計が100%にならない場合もある。)

* 調査対象は、全国の16歳以上の男女から抽出

【**条件**】

- ① 二段落構成とし、第一段落にはグラフA、Bを見て気づいたことを書き、第二段落には第一段落の内容をふまえて、あなたが考えたことを書くこと。
- ② 題名は書かないで、本文から書き始め、解答欄の七行以上、九行以内でまとめること。
- ③ 原稿用紙の正しい使い方に従うこと。

